

北陸地域連携プラットフォーム中間整理骨子 ～北陸地域の「地方創生」の一助として～

I はじめに

本報告は、これまでの北陸地域連携プラットフォームにおいて、人口減少問題や地方創生に係る総論的な議論がひとつとおり行われたものと考えられることから、1つの区切りとして、議論を整理するものである。

II これまでの議論の概要

第1回から第3回では、経済・財政、人口減少・少子高齢化時代の社会保障、都市政策について意見交換を行った。第4回と第5回では、北陸地域における地方創生の先進的な取組事例について、意見交換を行った。

また、第5回から第7回にかけては、国の地方創生の取組みや金融機関の役割、北陸地域経済の新たな幕開けとして北陸新幹線金沢・富山開業の北陸経済への波及効果等について、意見交換を行った。

III まとめ

(現状認識)

我が国は、このままの現状が続くと、さらに人口減少と高齢化が進み、経済は縮小し、国力が低下していく可能性が高い。人口減少と高齢化は、これまでの枠組みに大きな影響を与えるものである。

北陸地域に目を転じると、地域によっては、人口減少と高齢化が全国に先駆けて進んでおり、人口減少問題に対処することは北陸地域の喫緊の課題であり、待ったなしの状況である。

(人口減少問題への対応)

地方自治体は、国の総合戦略等を受け、2015年度中に地方版の人口ビジョン及び総合戦略を策定することとなっており、地方創生は日本の創生であるという認識の下、新しい国のかたちづくりに向け、国と地方が一体となって地方創生に取り組んでいるところである。

地方創生のための施策は、総花的なものではなく、本当に重要なものを選択し集中する必要がある。30年後、40年後の国のかたち、地域社会の在り方、地域で暮らしていく人の暮らし方や価値観などを考え、地域固有の資源やアイデンティティーを活かしながら、地方から戦略を描き出していくことが肝要である。

(北陸地域の「地方創生」の実現に向けて必要なこと)

➤ 北陸地域の魅力の洗出し

北陸地域には、産業集積（産業クラスター）、高い技術力等を有する企業、充実した子育て環境、幸福度や住みよさなど、他の地域の方からみると非常に魅力的である資源や環境がある。

これらの中には、住んでいる一人ひとりには身近すぎて気が付かないものもあると考えられるが、こういった魅力を洗い出し、磨き込み、見えにくいものは可視化し、情報発信していくことが重要である。

一方、弱みについても洗い出し、直視し、解消できるものは解消する努力を行っていくことも忘れてはならない。

➤ 女性がより一層活躍できる環境を整備

北陸地域はもともと女性が活躍している地域であるが、仕事と家事・育児を両立できる環境整備等をより一層進め、女性の活躍の可能性を広げていく必要がある。

➤ 北陸3県の連携による相乗効果発揮

北陸地域の魅力を磨いていく際には、3県がこれまで以上に連携し、それぞれの取組みが相乗効果を発揮するように努める必要がある。1つの地方自治体単独ではなく、必要に応じて周辺の自治体や関係する自治体と連携し、広い視野に立った企画立案と実行が必要である。

➤ 北陸新幹線開業という「追い風」を最大化

北陸新幹線効果を一時的ではなく永続的なものとし、北陸地域の隅々にまで波及させ、その効果を最大化するための取組みを推進していく必要がある。

また、今後の更なる敦賀早期開業及び大阪までのフル規格による全線整備までを見据えて、今からできることを準備していく必要がある。

➤ 金融機関や民間の手法を活用

地方版総合戦略の策定や実施に当たっては、金融機関の役割も非常に重要であるほか、PPP/PFI等の民間の手法を取り入れることなども検討していく必要がある。

IV さいごに

北陸地域連携プラットフォームにおいては、引き続き、北陸地域の真の創生に向けて何が柱として必要かを議論し、地方創生の一助として、有用な情報を発信してまいりたい。